

【テーマ】

「安全衛生教育をより充実させるための提案」

目次

1. メンバー紹介
2. テーマ選定理由
3. 現状把握
4. 課題の層別と要因について
5. 災害の再分析
6. 各社の安全衛生教育について
7. 安全衛生教育の課題について
8. 教育の好事例紹介
9. 安全衛生教育のまとめ
10. 異業種訪問の学び
11. 安全衛生教育をより充実させるための提案

日本自動車部品工業会
調査・研究WG Aグループ

1. メンバー紹介

会社名	所属/役職	氏名
トヨタ自動車東日本(株)	安全・健康推進部 安全・衛生G	鳥畑 成紀
トヨタ自動車東日本(株)	安全・健康推進部 安全・衛生G チーフエキスパート	岩崎 鉄郎
(株)アイシン	安全健康推進部 安全衛生・防火室 主幹	高橋 誠次
カヤバ(株)	CSR・安全本部 安全・環境部 岐阜分室 岐阜南・東駐在	田中 正紀
トヨタ紡織(株)	安全衛生健康センター 安全推進室 安全教育・工事G 主任	田中 裕晶
日産車体(株)	安全環境部	長野 隆夫
日本特殊陶業(株)	環境安全部 安全衛生課 課長	荻野 悟

集合写真

(日本自動車部品工業会、会館)⇒



2. テーマ選定理由

各社との会話にて右の災害事例1の共有をし、話し合いを実施

この災害は、職場での作業教育等の重要度が下がってしまっていたと感じている...

WG会社1(幹事)

各社の教育はどのようなものがあるのかぜひ教えてほしい

他社の教育はどのようなものかを比較したことがないので見てみたい

WG会社2

弊社もなかなか災害が減らないので皆さんと一緒に考えていきたい

WG会社3

労働災害と教育について議論を始める

災害事例1

【発生日時】 2024年7月6日(土)

ルール不遵守

【発生場所】 ボデー工程

【傷病名】 左中指切創、爪割れ

【発生状況】

ティーチ用ボデーを専用ホイスต์にて吊上用ハンガーをボデーにセットをする際、
アーム部に手を添えていたが、ホイスต์を誤操作してしまい指を挟んだ。(保護具としてケプラ手袋、手甲は着用していた)

【発生要因】

- ①被災者は計画上作業予定者ではなかった。(作業指揮者であった)
- ②三人作業のところを一人で作業を実施。

ホイスต์とは...

工場や倉庫などで重量物を持ち上げるための装置



2. テーマ選定理由

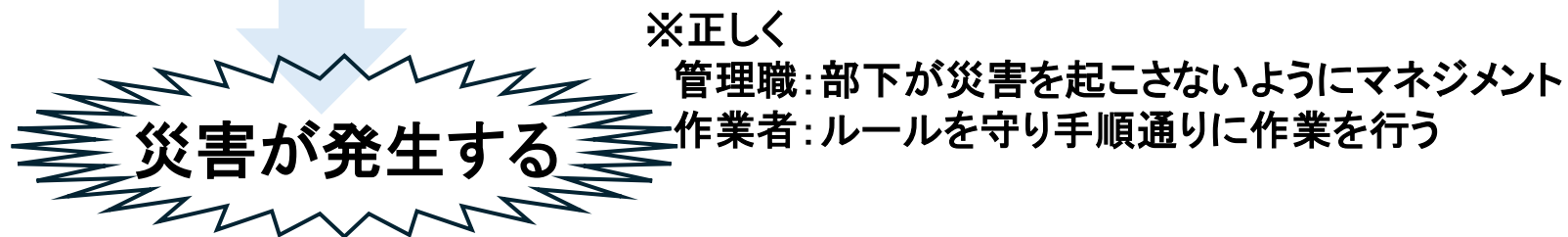
WG参加の各社と災害を減少させるための目指す姿と災害発生の背景を議論

＜目指す姿＞ 各社において労働災害を発生させない



＜災害の背景＞ 各社において労働災害をなくすことができていない
会社のルールを知らない方や法令を十分理解できていない方もいる

正しく(※)管理が出来ない、正しく作業が出来ない、正しく使用出来ない
安全に作業することを優先する文化がまだ十分でない

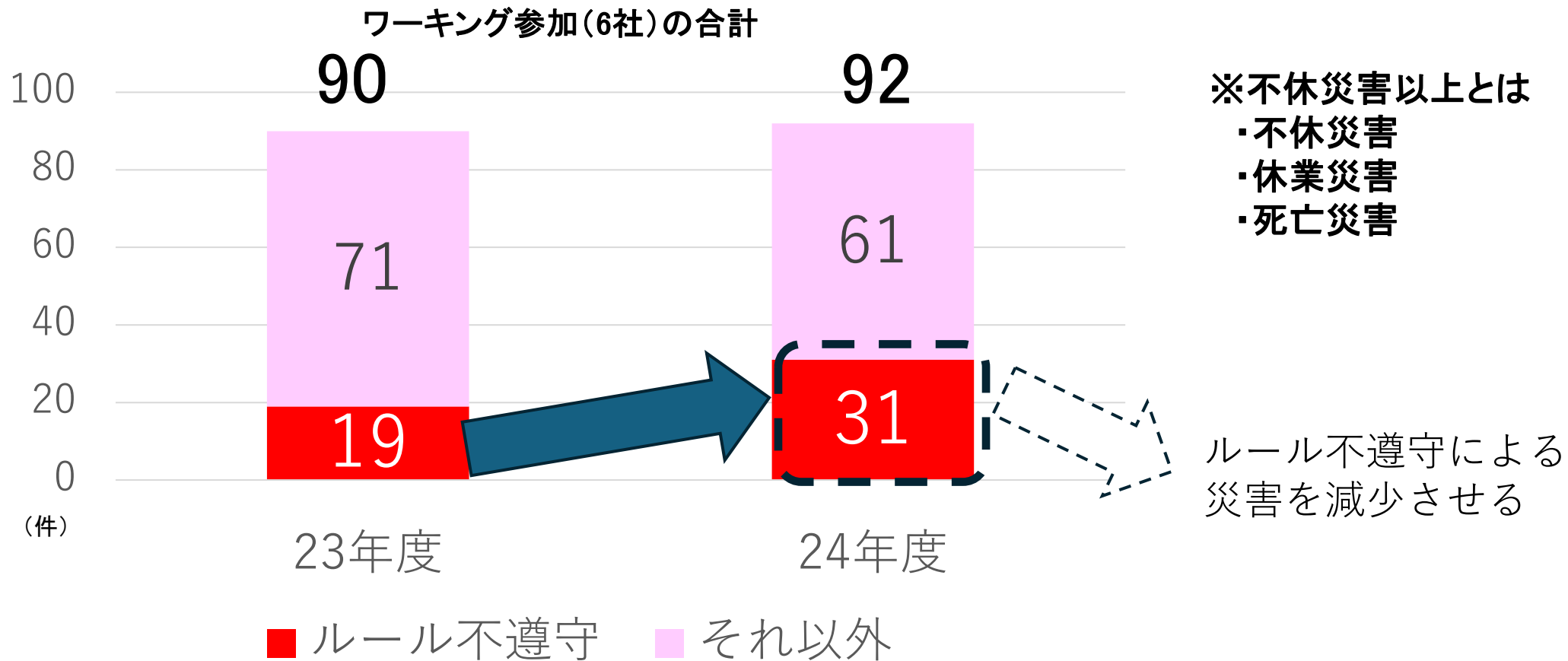


ルール不遵守等の災害の予防へ繋げる教育を充実する必要あり

3. 現状把握

ワーキング各社の災害状況の調査を実施

23年度・24年度労災件数グラフ(不休災害以上※)



増加傾向にあるルール不遵守の災害を減らしたい

3. 現状把握

災害事例2

【発生日時】 2024年11月12日(火)

ルール不遵守

【発生場所】 金型保全

【傷病名】 両太腿骨骨幹部骨折、右足関節外果骨折

【発生状況】

作業台上でのスライド中子分解作業中に、
マグネット吊り具(約13kg)をスライド中子の上に
置いた時**バランスが崩れ、スライド中子が落下し
両足太腿に当たり転倒**

【発生要因】

人: 落下防止対策※未実施(ルール不遵守)
⇒ 番木での支え無し、チェーンかけず

中子(なかご)とは...

中空部分のある鋳物を作る際に、
空洞となる部分に配置される砂型



災害事例3

【発生日時】 2024年6月15日(木)

ルール不遵守

【発生場所】 順送プレス工程

【傷病名】 左足靭帯損傷(膝裏)

【発生状況】

プレスの上型クランパー動作異常が発生した。
給油のためジョッキに油を2L程入れ、**ジョッキを
持ったまま片手のみで梯子をのぼった**。(ルール不遵守)
途中、2.8mの所から足を滑らせ落下。

【発生要因】

片手にジョッキを持っていたためバランスを
くずしやすい体勢になっていた。
梯子が油等で滑りやすくなっていた。



3. 現状把握

災害事例4

ルール不遵守

【発生日時】 2024年9月23日(月)

【発生場所】 車体工場

【傷病名】 顎切創

【発生状況】

B/SIDE UPR PANELのフランジ部が顎にあたる

【発生要因】

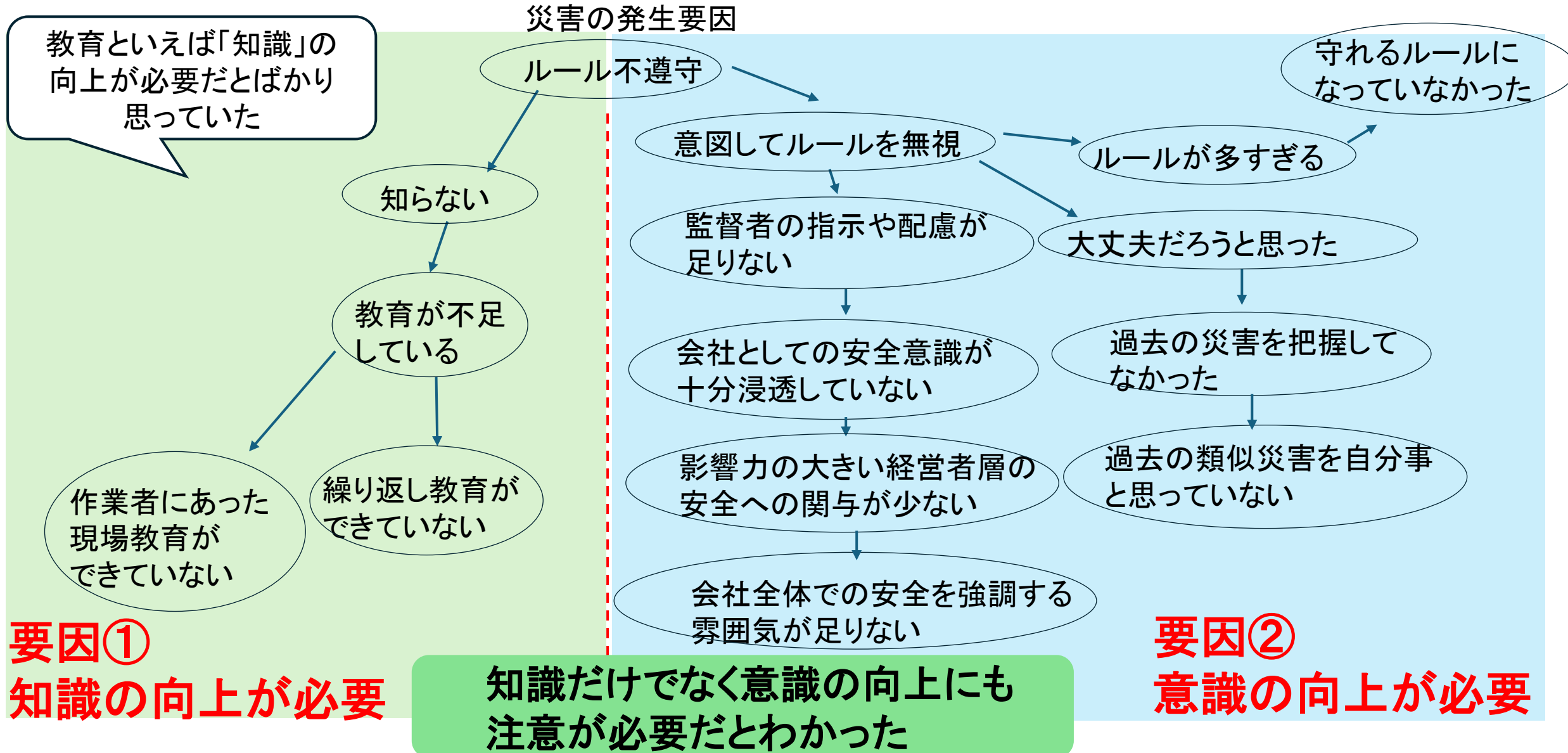
フェイスガードを意図してあげていた



WG参加の会社でも様々なルール不遵守の災害が発生

4. 課題の層別と要因について

なぜルール不遵守による災害が発生してしまうのかをワイガヤ



5. 災害の再分析

災害の発生が知識不足か、意識不足かを再度分析

災害事例1

【発生日時】 2024年7月6日(土)

【発生場所】 ボデー工程

【傷病名】 左中指切創、爪割れ

【発生状況】

ティーチ用ボデーを専用ホイスにて吊上用ハンガーをボデーにセットをする際、アーム部に手を添えていたが、ホイスを誤操作してしまい指を挟んだ。
(保護具としてケブラ手袋、手甲は着用していた)

【発生要因】

- ①被災者は計画上作業予定者ではなかった。
(作業指揮者)
- ②三人作業のところを一人で作業を実施。



知識の不足

- ・作業指揮者がホイス作業時
当作業での作業標準(持ち手)と違う操作

意識の不足

- ・良かれと思って危険な行為を
してしまった

5. 災害の再分析

災害事例2

【発生日時】 2024年11月12日(火)

【発生場所】 金型保全

【傷病名】 両太腿骨骨幹部骨折、右足関節外果骨折

【発生状況】

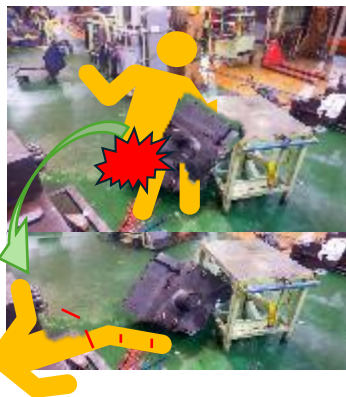
作業台上でのスライド中子分解作業中に、
マグネット吊り具(約13kg)をスライド中子の上に
置いた時バランスが崩れ、スライド中子が落下し
両足太腿に当たり転倒

【発生要因】

人: 落下防止対策※未実施(ルール不遵守)

⇒ 番木での支え無し、チェーンかけず

ルール不遵守



災害事例3

【発生日時】 2024年6月15日(木)

【発生場所】 順送プレス工程

【傷病名】 左足靭帯損傷(膝裏)

【発生状況】

プレスの上型クランパー動作異常が発生した。
給油のためジョッキに油を2L程入れ、ジョッキを
持ったまま片手のみで梯子をのぼった。(ルール不遵守)
途中、2.8mの所から足を滑らせ落下。

【発生要因】

片手にジョッキを持っていたためバランスをくずしやすい
体勢になっていた。
梯子が油等で滑りやすくなっていた。

ルール不遵守



災害事例4

【発生日時】 2024年9月23日(月)

【発生場所】 車体工場

【傷病名】 顎切創

【発生状況】

B/SIDE UPR PANELのフランジ部が顎にあたる

【発生要因】

フェイスガードを意図してあげていた

ルール不遵守



意識の不足

- ・いずれの災害もルールを認識し、意図してルール不遵守をしてしまっていた
- ・作業者の安全への意識が少し低くなっていた

知識不足なのか、意識不足なのか、
両方なのか分類することができた
⇒ 不足を補うための教育の議論へ

6. 各社の安全衛生教育について

ワーキンググループ各社がどの職層にどんな教育（**法定外**）を行っているか調査

 ：経営者層 ：管理監督者層 ：現場作業者層

項目	A社	B社	C社	D社	E社	F社
役員級（経営層）	経営者層安全衛生教育	役員安全セミナー			コンプライアンスDAY	ISO-45001認証取得時教育
部長級	経営者層安全衛生教育	マネジメント研修	・安全管理者能力向上教育 ・安全管理者選任時研修	安全管理者の思い出し教育	法令に関する任命の責務通知	
課長級	管理監督者教育	マネジメント研修	・安全管理者能力向上教育 ・安全管理者選任時研修	安全管理者選任時研修	法令に関する任命の責務通知	重篤な災害発生現場についてRA教育 勤続10年目研修
監督者（工長・組長など）級	管理監督者教育	役割研修	・職長能力向上教育 ・職長教育	監督者昇格前・後教育	保護具着用管理責任者・化学物質管理者 教育 法令e-ラーニング	重篤な災害発生現場についてRA教育 勤続3年目研修
作業者	資格取得者への再教育等	安全・防火・交通安全など	定期安全衛生教育（5年毎）	安全基本行動教育	危険体感教育、特化物ほか各技能講習	重篤な災害発生現場についてRA教育
その他	—	—	定期安全衛生教育（5年毎）	—	構内工事作業責任者教育 コンプライアンスカスケード	—

6. 各社の安全衛生教育について

各社の教育の内容を知識の向上・意識の向上で分類

知識を主に高める教育

最初に1回教育を行うものが多い
(一部繰り返し教育もあり)

設備安全教育

役割研修

高所作業教育教育

工事担当者教育

設備点検者教育

異常処置者養成教育

設備保全指揮者安全教育

監督者昇格前・後教育

管理監督者e-ラーニング等

意識を主に高める教育

再教育や安全の意識向上に注目した教育

定期安全衛生教育

経営者層安全衛生教育

管理監督者安全教育

工作機械等の再教育

勤続3年目・10年目教育

マネジメント研修

新任基幹職(管理者)安全衛生教育

安全基本行動教育等

さまざまな教育が行われていることは分かったが...

7. 安全衛生教育の課題について

教育自体はやっているのになぜ効果がなかなか出ないのか議論

課題

- ①経営者層の安全のリーダーシップや率先垂範の教育が十分でないのでは？
- ②どうやって教育対象者に自分事として安全をとらえてもらうか？
- ③どの対象者にどのような教育を行っていくべきか？
- ④安全関係職場ではわかっていることが現場作業員が分からない事もあるのでは？

教育のやり方・内容について新たな課題が発生
教育の事例を各社から共有いただいた

8. 教育の好事例紹介

意識を高める事例ー1（課題①に対する教育） 経営者層安全衛生教育

POINT！

**・経営者層へ安全意識
向上の教育を行う**

目的：これまで課長級まで行っていた安全衛生の教育を役員等

経営者層まで拡大し全社の安全衛生管理の意識づけとレベルアップを図る

対象者：①総括安全衛生管理者（各拠点工場長、現場を担当する役員）

②各部長（安全管理者）

講師：外部講師 労働衛生コンサルタント

内容：（下記2. 5H）

1. 安全衛生を取り組む理由

作業者はかけがえのない存在である、また企業の様々な責任が発生する

2. 労災事故と企業責任

労災事例の紹介と災害を未然に防止する必要性と法的責任の解説

3. 労働安全衛生関係法令

実際の事例も交えながら労働安全衛生法のポイントの解説等



経営層安全衛生管理研修

～安全衛生管理の基礎（法令を中心に）～

2024年度より新たに教育を始めた

アンケート結果：90%以上の方が教育は良かったと回答

役員からも意識づけになったとの意見

8. 教育の好事例紹介

意識を高める事例一2(課題①に対する教育)

新任基幹職(管理者)安全衛生教育(抜粋)

対象者: 新任基幹職(管理者)

目的 : 新任基幹職に対し基幹職としての
責任とやるべきことを教育する

講師 : 安全衛生部長経験者

内容 : (Total 2.0H)

- ①: 管理者の法的責務について
- ②: グループ会社の労働災害の傾向について
- ③: リスクアセスメント/リスクマネジメント(設備、作業のリスクに対しハード対策を実施し、リスクを下げる活動)
- ④: 法令について(労働安全衛生法 88条について、安全装置について等)

POINT !

・基幹職(管理者)になったとき
に社内の経験者から直接
改めて安全の重要性を伝える

アンケート結果より

- ・基幹職として安全に対して心がけること、やるべきことが理解できた
- ・現場に足を運びせつびさぎように目を向ける時間を増やした

8. 教育の好事例紹介

意識を高める事例ー3(課題①、②に対する教育)

安全意識の向上・啓発を目的とした講演会

対象者: 役員 および 全従業員

講師: 外部講師 労働衛生コンサルティング会社

受講方法: ①会場 ②Live配信 ③オンデマンド配信

演題: 『安全風土再構築にむけて』


背景: ルール不順守による災害・重大ヒヤリが増加



基本ルールを徹底し、ルール順守するには？

安全文化に関する質問

- あなたの組織では「いつか」のケガ発生は容認されていますか？
- いつまで？ それは誰がどこで決めるのですか？
- 従業員が職場の安全が高いレベルであると感じていたら、安全上の問題を見逃ごすでしょうか？



POINT !

**・役員を含めた全従業員に
対し意識向上を行う**



アンケート結果(自由意見)

- ・模範となる行動を率先し安全風土の構築に繋げていきたい
- ・安全と健康を最優先にできるよう感度を磨いていきたい

8. 教育の好事例紹介

意識を高める事例ー4(課題②、④に対する教育) **POINT!**

・全従業員に対してこちら
から出向き意識向上を行う

伝承館キャラバン(工場巡回)

目的:全従業員が自分事として安全を振り返る機会をつくり安全意識向上に繋げる

対象者:①社内全従業員
②グループ会社従業員
③仕入先含む協力会社

内容:◆社長の“私の決意”
◆過去5年間の災害発生状況
◆社内の安全基本ルールの再確認
◆グループ内で発生した過去の重大災害の振り返り
◆(今年度重点活動)転倒災害防止の啓発動画



アンケート結果より(16拠点中7拠点終了時点)

- ・参加者の88%が「安全意識が高まった」と回答
- ・自由記述回答では「より一層安全に作業をしないと気を引き締める事ができた。」
「自分の職場でも気を付けようという意識が高まった」等の意見

8. 教育の好事例紹介

意識を高める事例一5(課題④に対する教育)

危険体感教育一覧表

対象者:新入社員、製造・研究・技術部門の従業員

目的:体をもって危険を体感し安全に対する意識を向上させる

講師:担当部署

受講方法:体感機器を使用

- ・3年に一度、製造部門は危険体感機を経験する
- ・災害発生職場は、管理職の判断で経験する

アンケート結果より
設備の怖さを理解できた
可動部には気を付けて手を入れないと強く思った
人はとっさにとる行動があることが改めて分かった

POINT!

- ・作業者に体感させることで
意識向上を行う

<体感内容>

1. プレス挟まれ
2. ロール巻き込まれ
3. Vベルト巻き込まれ
4. チェーン巻き込まれ、歯車挟まれ
5. 残圧挟まれ(スプリング・エアシリンダ)
6. エアシリンダー圧力差
7. ボール盤巻き込まれ
8. グラインダー惰性、切れ・スレ
9. せん断
10. 高圧力(薬液飛散)
11. 有機溶剤爆発
12. 粉じん爆発
13. 感電、トラッキング、過電流
14. 安全靴挟まれ
15. 重量物持ち上げ
16. 指差呼称
17. 安全扉・回転軸巻き込まれ
18. 丸刃切れ
19. VR(バーチャルリアリティ)
階段転倒、フォークリフト接触、段差踏み
カッター切創、液剤爆発
20. 落下衝撃
21. ボケ手転倒
22. とっさ行動 - 棚の扉
23. とっさ行動 - 部屋のドア
24. とっさ行動 - 手押し車
25. とっさ行動 - 重量物倒れ
26. 簡易担架持ち上げ
27. 高温体感
28. VR・ローラー巻き込まれ
29. 各種マネキン



4.チェーン巻き込まれ



13.粉じん爆発



14.感電、トラッキング、過電流



17.指差呼称



29.VR・ローラー巻き込まれ

8. 教育の好事例紹介

知識を高める事例ー 1 （課題③に対する教育）

安全関連法令E-Learning

対象者：管理監督者、安全関係者等

目的：社内ルールが様々な法令に結び付いている事例を自己学習してもらう

POINT！

**・管理監督者向けに
理解度の確認も行う**

安全関連法令 E-Learning (13 点)

FY25安全週間にあたり、全社E-Learningを準備しました。社内においてルールと言われている内容が、さまざまな法令に結び付いていることを事例をもって理解し、ルール遵守の重要性を再認識して頂ける機会の提供を目的に計画しました。楽しみながら活用頂けることを期待します。

活用にあたり注意事項：NS/NS-K・NS-AFL従業員（派遣・期間含む）を利用対象とします。 以外の無断転用・転送を禁止します。

10

問題3-③) あなたは工場稼働開始前の段取り作業中に、部品を落とし、自動設備の可動部に部品が落ち込んでしまいました。以下の行動について、「適切な行動」と判断される場合は○、「適切でない行動」は×を選択してください

復旧に時間がかかるので、安全装置を無効にし、できるだけ設備を止めないようにしてから部品を取るようにする*



○ ×

フィードバック:
正解！：安全則 第29条 労働者は、安全装置等について、次の事項を守らなければならない。一 安全装置等を取りはずし、又はその機能を失わせないこと。二 臨時に安全装置等を取りはずし、又はその機能を失わせる必要があるときは、あらかじめ、事業者の許可を受けること。

11

問題4 ①) あなたは神庫の改修作業を行おうとしています。以下の行動について、「適切な行動」と判断される場合は○、「適切でない行動」は×を選択してください

フォークリフトの貨物を降ろしているが足踏の終了音を確認していませんので、「徐了音」を待っている他の人に通知をお願いします*



○ ×

フィードバック:
正解！：作業安全衛生法第61条 第一項の改修より足踏機等について、当該機等により、又は、それらに係る作業の終了の音を確認する音声を待たなければならない。

アンケート結果より

- ・参加者の90%が取り組みについて「満足」「やや満足」と回答
- ・自由記述回答では「普段起こりうる状況が問題の為、安全意識の重要性を深く理解しました」「問題形式のため楽しく自己学習ができる」等の意見

8. 教育の好事例紹介

知識・意識 両方を高める事例(課題②、③、④に対する教育) **POINT!**

定期安全衛生教育 2021~2025

対象者:現場作業者

目的:現場作業者それぞれにつき5年ごとに振り返り含め安全を教育するため(教育自体は毎年実施)

講師:社内講師

内容:(下記1H)

1. 会社の安全衛生活動

STOP6・ポケテナシ・ヒヤリハット・保護具の必要性

2. 危険予知

一人KY・交通KY

3. 過去の労災

4. 労働災害とは

労災の分類・発生時の対応

・作業者全員に一定期間

ごとに繰り返し教育を行う

3. 危険予知 (KYT)

一人KY

今から行う作業に危険は無いか!?

自問自答し行動目標を決める危険予知法

自問自答項目

自らの作業・機械について

挟まれないか?

巻き込まれないか?

当たらないか?

など

効果:どんな些細なケガも報告が挙がるようになった(隠ぺい体質の排除・風通しのよい職場の構築)

感想:一度聞いて忘れてしまっていたが、思い出すことができた


保護具の必要性を再認識でき、正しく着用するよう心掛けたい

9. 安全衛生教育のまとめ

教育事例を交えてさらに議論を重ねてみると・・・

会合での意見

- ・作業中での災害が多く発生してしまっている、意識を高めるためには1回で終わらず、**繰り返し教育**を行うことも重要である
- ・教育は集合教育だけでなく、**OJT、口頭指導、講演、監督者が現場で教えるのも教育である**
- ・**災害が少ない工場は経営者層の意識も安全を優先している、品質・生産優先の雰囲気は工場内でよくわかる**
- ・教育後に**理解度テスト**を行うことで記憶に残りやすくなった声があった

- 
- ・知識の向上：知らないをなくす、正しくないことに気づく
 - ・意識の向上：様々な方法で全社員が安全を優先する風土をつくる

教育は知識を教えるだけでなく、意識の向上の大切を再認識できた
また繰り返し行うことも重要だとわかった

10. 異業種訪問の学び

1) JR東日本(株)の安全教育について

訪問の目的: 安全の知識、意識の向上のために日々鉄道を通して安全を優先しているJR東日本様へ訪問

(株)JR東日本パーソネルサービスとは・・・

JR東日本のグループ力を活かした幅広い募集活動と信頼の高い教育システムによる人材派遣を主に行う

JR東日本様内での安全教育を行い、福島県に安全専門の教育施設を所有、社内外への教育を実施

JR東日本総合研修センター(福島県白河市)



(出典)JR東日本グループ安全計画2024▶2028



JR東日本パーソネルサービス
常勤顧問
佐藤 寿さん

ご紹介:

旧国鉄入社

JR東日本(株)の安全対策部勤務

人事部担当部長、JR東日本パーソネルサービスの常務取締役を歴任長い間社内の安全教育や教育施設の設立に携わる

10. 異業種訪問の学び

2) 訪問日・場所: 2025年7月25日(金) 15時・JR東日本本社ビル(新宿)

3) 内容 : 佐藤様よりJR東日本様で実施している安全教育や社外向け研修について主旨や特徴についてご教示いただいた。



- 4) 学び
- ・安全研修では指差呼称など眼だけでなく、**体全体を使って体感**させる
 - ・ルールを単に守らせるのではなく、その**ルールの理由や経緯を説明**する
 - ・JR東日本様では数年かけて鉄道に携わる**社員(グループ社員含む)の全員(約8万人)に繰り返し安全教育**を行っている
 - ・教育をすれば、文書化すればちゃんと**理解して実行してくれるだろう**と思ってしまうのは**間違い**である。(=「過信の壁」「注意幻想」「文書幻想」など)
 - ・作業手順や作業環境が変わるなどの**変化点へのより一層の注意**や、部下へは**教育後や日ごろからの積極的な声掛けなどの関わり**が重要

- ・乗客のお客様や社員の安全を守るため、非常に**意識の高い教育**が行われていることを知ることができた
- ・安全意識を高めるために**教育後の理解度の確認(振り返り)**をする必要があることが分かった

11. 安全衛生教育をより充実させるための提案

これまでの会合、異業種の学びを踏まえたご提案

①経営者層の安全のリーダーシップや率先垂範の教育が十分でないのでは？

⇒全社の安全意識へ影響する経営者層にも安全衛生教育を行い、安全優先の風土を醸成する。また、経営者層からの安全意識の発信も大事である

②どうやって教育対象者に自分事として安全をとらえてもらうか？

⇒教育実施の主旨、目的を説明し、身近な事例で自分にも起こりうる危機感をもつような意識を高める教育を行い、教育後に振り返り等で確認する

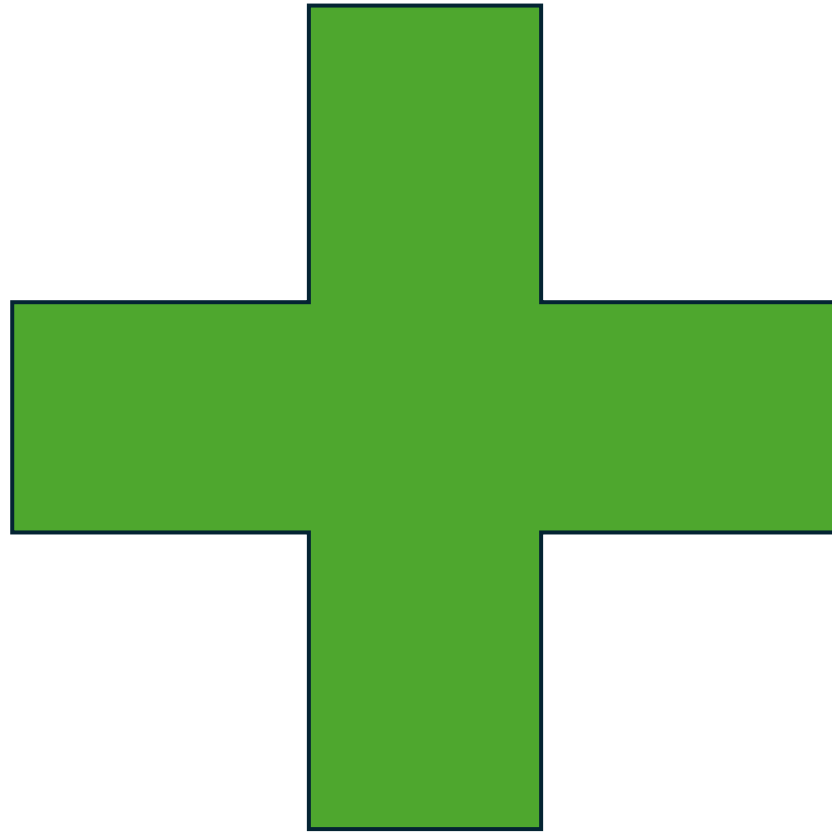
③どの対象者にどのような教育を行っていくべきか？

⇒知識の向上が必要なのか、意識を高める必要があるのか確認し対象者に合った教育を行う

④安全関係職場ではわかっていることが現場作業員が分からない事もあるのでは？

⇒定期教育などによって作業員も繰り返し教育を受けてもらい、加えて職場ごとに扱う物に合わせた教育を行うと良い

皆さまも教育をご検討される際には上記内容を
少しでも気にかけて頂ければ幸いです



ご清聴ありがとうございました
ご安全に